

発表演題：上顎前歯欠損に対し、骨造成を伴ったインプラント治療により、長期経過良好な審美的顔貌を保全している症例

著者名：西山和彦

抄録：

緒言；下顔面の軟組織を保持するのは硬組織（歯牙と歯槽骨）であるので、顔面の審美・美容を考える時、軟組織の改善だけでは十分な結果を出せない。さらに、良好な咬合を営んで初めて咀嚼筋や顔面表情筋が正常に働き、真の審美を獲得できる。

症例；咬合再構成が終了した 62 歳時、運動会のパン喰い競争で転倒、歯根破折したために、抜歯を余儀なくされた。#11,21,22 欠損に対して、骨造成を伴うインプラント補綴を行ったために、73 歳となった現在も、インプラントから咀嚼圧が骨に伝わるために、骨も維持され、年齢を加味すると口唇周辺の皺があまりなく、鼻唇角も良好で、審美を保全していると思われる。

結論；前歯部歯牙欠損に対しては、従来の義歯では審美回復・維持は望めない。審美回復が目的ではなかったが、骨造成を伴ったインプラント補綴は満足いく審美回復の手段となり得る。